紙面編集・戸田潤一　（第３種郵便物認可）　2013年6月24日（月）　長崎新

「世界とつながる外交官」

県地方史研究会発表会
二十六聖人記念館長が講演

伊東マンショの功績紹介

県地方史研究会（会長・原田博二長崎史談会長）は23日、長崎市内で研究発表会を開き、日本二十六聖人記念館のデ・ルカ・レンゾ館長が「長崎のイエズス会本部に眠る宣教師たち」のテーマで講演。伊東マンショらの功績を紹介した。

レンゾ館長は、現在県庁のある場所に1570年代から1614年までカトリック修道会のイエズス会日本本部があり、亡くなった17人の神父や修道士が葬られたと説明。この中には現在の西海市西海町横瀬浦に上陸して「日本史」を書いたルイス・フロイスや、天正遣欧少年使節だった伊東マンショがいるという。

伊東マンショは日本語以外にスペイン語、イタリア語など4カ国語で当時のローマ法王らに書簡を送っており、レンゾ館長は「外交官のような活動もしていたと言える。世界とつながりを持つ人物が長崎にいたことは世界遺産登録を考える上でも価値がある」と歴史的意義を強調。少年使節として謁見（えっけん）した当時のローマ法王にもらったとされる「黄金の十字架が墓に収められた可能性がある」とも述べ、約130人の聴衆は歴史ロマンに思いをはせていた。

（村田傑人）

イエズス会の宣教師の功績などについて紹介するレンゾ館長＝長崎市桜町、県勤労福祉会館

掲載写真は
ウェブ写真館
長崎新聞ホームページ
長崎新聞　写真館　検索